

2017年 コペンハーゲン国際ドキュメンタリー映画祭(CPH:DOX) F:ACT賞受賞  
 2016年 アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭(IDFA)  
 オランダ・ドキュメンタリー部門 サウンド&ビジョン賞受賞  
 2017年 マドリード・ドキュメンタリー映画祭 観客賞受賞  
 2017年 イズマイリア国際ドキュメンタリー映画祭 最優秀ドキュメンタリー賞受賞  
 2017年 ティラナ国際映画祭 ドキュメンタリー部門 最優秀長編ヨーロッパ作品賞受賞  
 2017年 イスタンブール・ドキュメンタリー・フェスティバル国際批評家賞受賞  
 2017年 トレーター国際映画祭 カラードキュメンタリー部門 最優秀作品賞受賞  
 2017年 ベルゲン国際映画祭 チェックポイント・コンペティション部門 最優秀作品賞受賞  
 2017年 オランダ映画祭 長編ドキュメンタリー部門ノミネート  
 2017年 フロントドック国際ドキュメンタリー映画祭 観客賞受賞  
 2017年 カメライメージ映画祭 ドキュメンタリー部門 最優秀作品賞受賞

# ラジオ・コバニ

Radio Kobani

ラジオから聞こえる「おはよう」が、  
 今日も街に復興の息吹を届ける



ISとの戦闘で瓦礫と化したシリア北部の街で、大学生のディロバンは手作りのラジオ局をはじめる

監督・脚本:ラバー・ドスキー 2016年/オランダ/69分/カラー/英語/2.39:1/カラー/ステレオ/DCP 配給:アップリンク 字幕翻訳:観賞評書 字幕監修:ワカス・オウタカ



# 心を打たれた。世界が観るべき作品だ。

—IDFA2016

深く傷ついてきた人々へ希望を与えるドキュメンタリー。  
未来を築くために立ち上がった、控えめだが力強い人たちの姿を描いている。

—Backseat Mafia



ISとの戦闘で瓦礫と化したシリア北部の街・コバニで  
手作りのラジオ局をはじめた大学生のディロバン。  
ラジオから聞こえる彼女の「おはよう」が、  
今日も街に復興の息吹を届ける——。



トルコとの国境に近いシリア北部のクルド人街コバニは、2014年9月から過激派組織「イスラム国」(IS)の占領下となるも、クルド人民防衛隊(YPG)による激しい迎撃と連合軍の空爆支援により、2015年1月に解放された。人々はコバニに戻って来たが、数カ月にもわたる戦闘で街の大半が瓦礫と化してしまった。そんな中、20歳の大学生ディロバンは、友人とラジオ局を立ち上げ、ラジオ番組「おはよう コバニ」の放送をはじめた。生き残った人々や、戦士、詩人などの声を届ける彼女の番組は、街を再建して未来を築こうとする人々に希望と連帯感をもたらす。

「武器を作るのをやめると  
私は言いたい」  
——ラベードスキー監督

## 「戦争に勝者などいません。どちらも敗者です」

「未来のわが子へ。戦争に勝者などいません。どちらも敗者です」そう語るディロバンは、いつか生まれるであろうわが子、そして今後生まれてくる“コバニで何が起きたか知りたい全ての子供たち”に向けて、自分の街や家族、友人たちが受けた悲惨な物語を手紙につづる。戦闘真只中の2014年から、コバニに復興の光が差し込み始めるまでの激動の3年間を追ったカメラは、やがて日常生活のささやかな喜びや恋愛を享受するディロバン自身の姿も捉えている。監督は、自身もクルド人のラベードスキー。地雷や戦車を越えコバニに赴き戦地での撮影を敢行、クルド人兵士によるIS兵士の尋問にも立ち会った。本作を、戦死したクルド人兵士の姉に捧げている。



※本作は想像の激しい道徳的議論の場がありますので、あらかじめご了承ください。また、13歳未満の子どもは保護者監督の元による鑑賞をお願いします。

監督・脚本：ラベードスキー (2016年 / オランダ / 69分 / カラー / 2.39:1 / カラー / ステレオ / DCP) 配給：アップリンク 字幕翻訳：観音庵書 字幕監修：ワックス・シューラケ



# R a d i o K o b a n i

5/12<sup>±</sup>  
より公開

全席指定大人専用  
東急本店右側道200m先  
**UPLINK 渋谷**  
03(6825)5503  
www.uplink.co.jp

JR総武線・都営地下鉄大江戸線  
東中野駅より徒歩1分  
**ポレポレ東中野**  
03(3371)0088  
www.mmjp.or.jp/pole2

シリア内戦で秘密裡に結成された  
市民ジャーナリストたちの闘い  
『ラッカは静かに虐殺されている』  
4/14<sup>±</sup>より公開

